

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第1756号	氏名	神田 和亮
論文審査担当者		主査教授	関根 一郎
		副査教授	永安 武
		副査教授	小路 武彦
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1.研究目的の評価 Proto-oncogene である Ets-1 は、癌の間質浸潤や血管新生に関与するとされている。さらに癌細胞でも発現し、癌浸潤や随伴血管の新生に関与することが報告されている。胃癌では浸潤と分化度に、膵癌においては分化度に関係すると報告されている。今回、肝臓癌の外科切除標本を用いて、Ets-1 の発現と臨床病理学的事項との関連を検討するとした研究目的は明確である。</p> <p>2. 研究手段に関する評価 59 症例の肝臓癌切除標本を収集、Ets-1 抗体を用いての免疫組織化学染色、In situ hybridization による Ets-1mRNA の局在の検討、肝癌組織や肝癌培養細胞を用いての、RT-PCR による Ets-1mRNA の発現の検討など研究手段や多様な臨床病理学的事項との検討と云った方法は妥当であった。</p> <p>3.結果・考察に関する評価 正常肝細胞には発現を認めず、肝細胞癌の細胞では、59 例中 41 例に Ets-1 の発現を認め、腫瘍内では腫瘍辺縁部に、また肝癌の分化度では分化度の低いほど、強い発現を認めたとする結果は、Ets-1 が肝癌の発育浸潤、分化に関与していることを推察させるものであった。以上のように、本論文は Ets-1 と肝細胞癌の関与を明らかにし、肝癌研究の発展に貢献するものと評価され、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			